

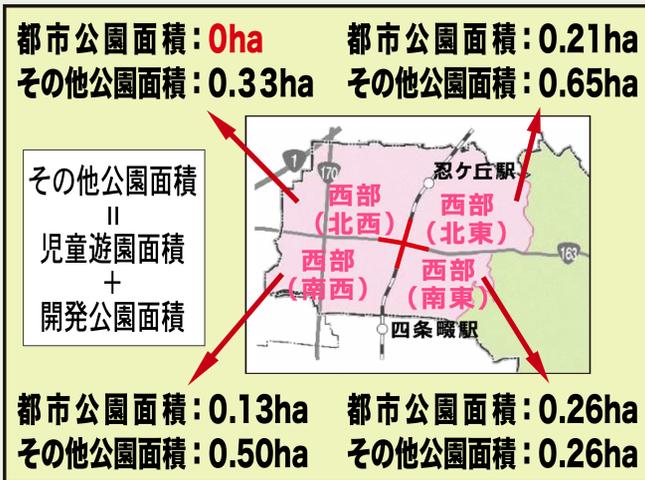
長畑ひろのり



News vol. 169

12月定例議会における質問②

・西部地域の公園整備について



【長畑質問】地区別で都市公園面積が0haのところがある。しかし、その北西地区にも、その他公園面積が0.33haと、少ないながら公園は存在するが、この面積は今も同じか。

【都市整備部長答弁】さんら児童遊園が閉園となり、減少。

【長畑質問】北西地区の公園は、ほぼ無いに等しいと思うが。

【都市整備部長答弁】非常に少ない状況となっている。

【長畑質問】「四條畷市みどりの基本計画」に、ため池の保全についての記述があるが、そこに載っている写真の場所と、その項目の1点目には何が書かれているのか。

【都市整備部長答弁】写真は岡山新池を掲載しており、項目の1点目は「ため池については、防災公園の整備等の可能性を検討します。」と記載（下画像参照）。

【長畑質問】新池はどこの地区にあり、どこが所有するのか。

【都市整備部長答弁】北西地区で、四條畷市の土地。

ため池の保全

- ため池については、防災公園の整備等の可能性を検討します。
- 大阪府と連携した、ため池調査

※「四條畷市みどりの基本計画」41頁より引用



写真、新池

【長畑質問】今も新池は農業用水を確保するための水をたくわえていると考えて間違いないのか。

【都市整備部長答弁】主目的としては農業用施設として、用水の確保のため貯水しているものとなる。

【長畑質問】田には水みらいセンターから水を送っており、現在の水量は必要ないと思うが。

【都市整備部長答弁】各田への配水は水利組合が担っており、水量が必要かどうかは本市で判断しかねる。ただ、水みらいセンターから供給されているため、以前より水量が確保されやすい状況。

【長畑質問】さんら児童遊園が閉園になった今、新池を防災公園は当然のこと、田への農業用水も確保し、親水公園も兼ねた都市公園に変えることはできないのか。

【都市整備部長答弁】土地は本市所有だが、運用も兼ねた維持管理を水利組合が実施している状況で、本市の独断で決定できるものではない。ただ、社会的に農業従事者が減少している状況等も踏まえ、今後のため池の在り方の一つの手法とは考える。まずは水利組合と慎重な協議を重ねていきたい。

【長畑質問】市民が良好な都市環境で生活する上にも、公園整備は必要不可欠。その点を踏まえれば、北西地区の都市公園面積0haは早急に改める必要があり、解消できれば本市のイメージアップに繋がる。改めて聞か、本市の独断で公園整備を計画することはできないのか。

【都市整備部長答弁】貯水量が変わるようなため池機能の変更は水の運用に大きく影響することから、その決定には、水利組合と慎重な協議が必要と考えている。

【長畑要望】早急に、新池に関する水利組合と農業用水の必要水量やため池全体の管理について、協議を始めることを要望する。

そして、その協議と並行に「四條畷市みどりの基本計画」通り、防災公園整備についても、新池における具体的な検討を、またそれと共に、将来に亘り農業用水を確保するためにも、防災公園に加え親水公園の検討を要望する。

新池を都市公園にする検討を！



てはなうでし
嘸條四
だしほきぎの

戦前の
四條嘸駅名標
イメージ図

しでうなはて今昔③

今月号も所有する絵葉書を掲載します。今回は、四條嘸神社一の鳥居（以下「鳥居」という。）です。絵葉書の作成された年代は、167号同様に宛名面からの推定です。その内容を記した167号は、右のQRコードよりご確認ください。



絵葉書右側の四條嘸神社と書かれた石柱の右側を拡大すると「氷」や「うどん」の文字が読み取れます。



当時、この場所は参拝者向けの食堂だったと思われます。

別格官弊社とは・・・

神社の社格の一つ。古来国家のために功勞のあった人臣を祭神とする神社のために設けられたもので、官幣小社に準じて取扱われた。明治5（1872）年神戸の湊川神社が定められたのに始まり、1946年社格が廃止されるまでに、28社に及んだ。

※ブリタニカ国際大百科事典より



居鳥の石社神嘸條四

きかは便郵

絵葉書の鳥居は、明治25年（1893）に石製にて創設。絵葉書の年代は、宛名面の「郵便はがき」が「きかは便郵」と右書きとなっている点や、「か」が「が」と濁点表示されていることより、昭和8年（1933）2月～昭和21年（1946）と推定。

CARTE POSTALE

鳥居は、本市で震度5弱を記録した大阪北部地震（平成30年6月18日）により一部が破損し、危険が伴うために撤去されました。



撤去後の右グーグルマップ画像を見るとわかる通り、石灯笼台座と「別格官弊社四條嘸神社」と書かれた石柱の位置が、絵葉書とは東西方向で入れ替わっています。市役所担当課に尋ねると「断定はできないが、参道を横断する旧170号の拡幅、信号機や歩道設置など交差点内安全確保のために石柱を山側（東側）に移動させたのではないかと」のことでした。

鳥居の撤去から3年、株式会社木又工務店社長の木又誠次氏により、吉野檜で鳥居は立派に再建（令和3年9月19日竣工式）されました。また、同氏により新たに灯笼も設置（令和4年12月30日）され、現在に至ります。



鳥居が石製から木製へと変わった以外にも、大阪北部地震前とは違うものがあります。「別格官弊社四條嘸神社」と書かれた石柱は「四條嘸神社」と書かれた小さなものに、灯笼の台座もひと回り小さくなり、より道路は安全となりました。

ひろのり物語 ⑩

作：長畑ひろのり

